

# 2015 年度 ANNUAL REPORT

---



公益社団法人 日本フィランソロピー協会

# 目次

2015 年度 アニュアルレポート発行にあたって .....	3
はじめに.....	4
活動内容.....	6
これまでのあゆみ.....	7
<b>出版事業</b>	
機関誌「フィランソロピー」 .....	8
冊子／調査レポート.....	9
<b>顕彰事業</b>	
まちかどのフィランソロピスト賞.....	10
企業フィランソロピー大賞.....	11
<b>研修事業</b>	
定例セミナー.....	12
フィランソロピーセミナー in 関西 .....	13
Stone Soup Club .....	13
<b>企業の CSR 支援事業</b>	
従業員ボランティア推進プログラム.....	14
寄付推進プログラム（フィランソロピーバンク） .....	16
助成事業支援.....	17
さまざまな社会貢献活動・人材育成支援 .....	17
NPO 人材育成支援 .....	18
東日本大震災の被災地支援.....	19
<b>次世代育成事業</b>	
チャリティーチャレンジ・プログラム.....	20
チャリティー・リレーマラソン.....	21
<b>共生社会づくり推進事業</b>	
フィランソロピー名刺.....	22
スタッフ紹介.....	23
<b>資料編</b>	
機関誌.....	24
定例セミナー.....	25
フィランソロピーセミナー in 関西／ Stone Soup Club .....	26
従業員ボランティア推進プログラム.....	27
寄付推進プログラム（フィランソロピーバンク） .....	28
復興応援 キリン絆プロジェクト .....	29
東日本大震災復興支援 サントリー東北サンさんプロジェクト チャレンジド・スポーツ支援事業.....	29
財務データ／会員数／役員.....	30

## 2015 年度 アニュアルレポート発行にあたって

公益社団法人日本フィランソロピー協会は、「一人ひとりが社会を作る主体としての責任を果たすため、企業フィランソロピーを核に個人の社会参加への道筋をつけ、民主主義の健全な育成を目指すこと」をミッションとして活動しています。2013 年度より、特に個人の社会参加推進を強化しておりますが、2015 年度も、それに注力してまいりました。ご支援・ご協力いただいております皆様方に、2015 年度の活動報告と今後の方向性について、アニュアルレポートとしてお届け申し上げます。

### 「ステークホルダーとともに進める企業の CSR 支援事業」の推進

当協会は、障がいの有無、年齢、性差、国籍などの属性や境遇に関わらず、誰しものが大切にされながら、社会参加でき、生き生きと暮らせる共生社会をめざしています。その実現のために、企業の従業員はじめステークホルダーの参画を促すための事業に注力してまいりました。主な事業は、寄付推進プログラムとボランティア推進プログラムです。従業員の参加による NPO 支援につなげ、それを契機として、個人の寄付・ボランティア活動を促したい、という思いがあります。各社における関心も高まり、参加地域も拡大しています。東日本大震災の被災地支援については、農業支援、障がい者スポーツ支援においても、被災地の方々と従業員の関わりも深まり、被災地への従業員ボランティア派遣なども行っていました。さまざまな出会いが、人としての共感を生み、共生社会への道筋が太くなると思っています。

### コレクティブ・フィランソロピーの推進

昨今、複雑化・深刻化する課題解決のためには、一企業、一 NPO、一行政だけの取り組みでは難しくなっています。それらをつなぎ、生かすことが当協会の役割だと改めて認識しています。企業の従業員研修、NPO の職員研修などを通じて、それぞれのネットワークを構築しつつありますが、2016 年度は、それをより活性化するために、まずは、子どもの貧困関連問題に取り組んでまいります。関心の高い企業の皆様と検討を始めてまいりましたが、今後、各企業の従業員や OB が地域で子供を支え、見守る人材として活躍できるよう、ボランティア人材育成事業を進める予定です。この課題は、社会全体で包括的に取り組むことが不可欠です。複数企業・NPO・行政がともに取り組むコレクティブ・フィランソロピーのモデル事業として推進してまいります。

### 「青少年へのシチズンシップ教育」の推進

選挙権年齢が 18 歳以上に引き下げられました。選挙は民主主義の根幹に関わる問題ですが、選挙・納税は直接民主主義、民間による公益活動は間接民主主義の原点と言われています。当協会におきましても、ミッションである「健全な民主主義社会の実現」を果たすために、小・中学校での「チャリティーチャレンジ・プログラム」を核に、青少年のシチズンシップ教育事業を推進してまいりました。引き続き、歴代の「まちかどのフィランソロピスト賞」受賞校とも連携し、次年度も民主主義社会の担い手としての次世代育成に尽力してまいります。

当協会は、各セクターをつなぎ、課題解決のためのネットワークを拡げ、深めながらコーディネート役を果たすことが使命だという思いを新たにしています。本レポートをお目通しいただき、ご意見など賜りながら、次のステージへと進んでいきたいと思っております。どうぞよろしくご理解・ご協力をお願い申し上げます。

公益社団法人日本フィランソロピー協会  
理事長 高橋 陽子

# はじめに

## 「健全な民主主義社会」の実現

障がいの有無や性別や年齢などに関係なく全ての人が、それぞれの役割を果たし、社会を構成する主体・主権者としての責任を果たす社会の実現

行政や企業セクターと協力しながらも独立した主体性を有する市民セクターが育ち、バランスの取れた社会の実現

## 私たちが フィランソロピー活動の原点と 考えるものとは

当協会では、“企業フィランソロピー”を中心に活動していますが、“個人フィランソロピー”を、健全な民主主義を創出するための原点と考えています。

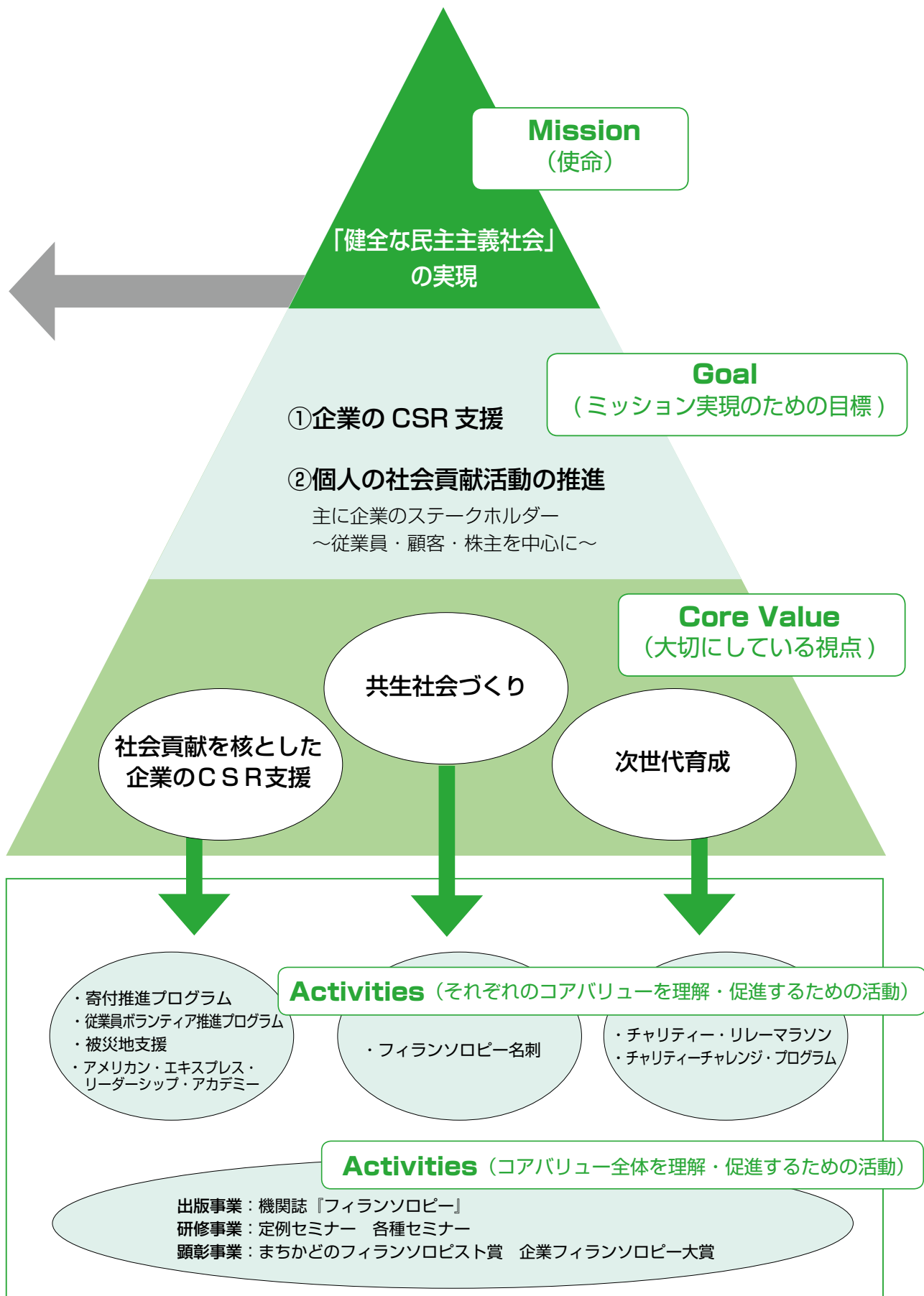
そのため、企業のステークホルダーである一人ひとりの個人が、**「より良い社会創造のために自ら考え、課題解決に向けて行動する」**ことを推奨しています。

---

### フィランソロピーとは

ギリシア語の「フィリア（愛）」と「アンソロポス（人類）」に由来する言葉で、「人類愛」「博愛」を意味し、今日的には「社会貢献」と訳されることが多いようです。また、フィランソロピーは、社会貢献活動を通して、社会の課題解決を図る、ということまでを包含する概念です。

フィランソロピー活動の主体は、本来は個人ですが、現在では企業の関わるフィランソロピー活動を企業フィランソロピーと言っています。



# 活動内容

当協会では、一人ひとりが主体的によりよい社会づくりに参加する健全な民主主義社会の実現を目指して、以下の事業を推進しています。

## 出版事業

- ・機関誌「フィランソロピー」
- ・冊子／調査レポート

## 顕彰事業

- ・まちかどのフィラン
- ・企業フィランソロ

## 企業の CSR 支援事業

- ・従業員ボランティア推進プログラム
- ・寄付推進プログラム（フィランソロンピーバンク）
- ・助成事業支援
- ・NPO 人材育成支援
- ・被災地支援事業（東日本大震災など）
- ・さまざまな社会貢献活動・人材育成支援

# 健全な 民主主義社会 の実現

## 次世代育成事業

- ・チャリティーチャレンジ・プログラム
- ・チャリティー・リレーマラソン

## 共生

## これまでのあゆみ

1960年 第一次安保闘争を機に、ジャーナリスト・学者などの有識者を中心に、不偏不党の立場で自由闊達な民主的社會を実現するため、「国民政治研究会」として勉強会を開始。

1962年 内閣総理大臣より公益法人としての認可を受ける。

1990年 **フィランソロピー元年**

★バブル経済へ続く1980年代後半には、欧米に進出した企業が現地企業の社会貢献活動に触発されるなか、企業フィランソロピーやメセナ等、企業の社会貢献活動が盛んになり、1990年には経済団体連合会の「1%クラブ」や「企業メセナ協議会」が発足、「フィランソロピー元年」と呼ばれた。（参考：内閣府「国民生活白書」より）

**1991年「企業市民室」を創設し、フィランソロピー推進事業を開始**

フィランソロピーを民主主義の原点と据え、企業フィランソロピーを通じて、個人の社会参加推進につなげることを事業の柱として新たな出発をする。

9月にシンポジウム『今、なぜフィランソロピーか』を開催  
10月より企業の担当者向けセミナーを開始

1992年 「月刊フィランソロピー」（現 機関誌「フィランソロピー」）創刊

**1994年「日本フィランソロピー協会」に改称**

1995年 **阪神・淡路大震災発災・ボランティア元年**

★阪神・淡路大震災で、数多くのボランティアがその救済や復興のために活躍。特に、社会人や学生がボランティアとして参加し、行政よりも柔軟に対応、「ボランティア元年」と呼ばれた。（参考：内閣府「国民生活白書」より）

1995年 神戸市長田区室内小学校の避難所の運営

1998年 知的障害者のアートと暮らしをテーマにした記録映画「まひるの星」制作。「まちかどのフィランソロピスト賞」創設

2000年 視覚障がい者、高齢者などへの音訳サービス「声の花束」開始

2003年 **CSR元年**

★ナイキの児童労働をめぐるサプライチェーン問題、エンロン事件を象徴として、コンプライアンス重視、コーポレートガバナンス時代に入った。SOX法など法整備が進み、取締役の善管注意義務が強調される内部統制が進んだ。多くの企業で、CSR担当部署が整備された。

2003年 「企業フィランソロピー大賞」創設

2005年 「まちかどのフィランソロピスト賞」に青少年部門創設

2007年 「フィランソロピーバンク」創設。文化庁主催「アート展・障がいのある人たちの作品たち」開催

2009年 新公益法人制度の下、公益社団法人として認定

「アメリカン・エクスプレス・リーダーシップ・アカデミー」開始

2010年 会員向け勉強会「Stone Soup Club」発足

2011年 「寄付育（現 チャリティーチャレンジ・プログラム）」開始

「復興応援 キリン絆プロジェクト」開始

「チャリティー・リレーマラソン」開始

2013年 「フィランソロピーセミナー in 関西」開始

2014年 「サントリー東北サンさんプロジェクト チャレンジド・スポーツ支援事業」開始

2015年 「ボランティアウェブ」開始

## ソロピスト賞（一般部門、青少年部門） ピー大賞

### 研修事業

- ・ 定例セミナー
- ・ フィランソロピーセミナー in 関西
- ・ Stone Soup Club  
（会員企業担当者の勉強会）

## 社会づくり推進事業

- ・ 障がい者アート普及事業

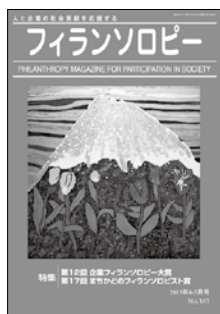
# 出版事業

フィランソロピーを広げるために、各種の出版物や調査報告書の発行を通して啓発活動に努めています。創刊以来、2015年度末現在372号を数える機関誌「フィランソロピー」では、社会の課題を抽出して特集として企画・編集するとともに、企業フィランソロピー活動の先進事例や、個人やNPOの活動について紹介しています。また、時節に応じて、各種のレポートを発行しています。

## 機関誌「フィランソロピー」(2015年度)

表紙には、主に知的・精神障がいのある方の作品を掲載しています。作品をご紹介することで、読者に、彼らの魂の声、多彩な個性、固定観念・既成概念から解き放たれた自在な表現を感じていただければと、全国のアーティストを発掘しています。

目次のページには、作者のプロフィールや声を掲載しています。それを読んでいただくことで、実は、表紙そのものが、私たちのめざすフィランソロピーの具現化であることを感じていただければ幸いです。



2015年度	特 集
No.367 (4-5月号)	第12回企業フィランソロピー大賞／第17回まちかどのフィランソロピスト賞
No.368 (6-7月号)	いつでもだれでもチャレンジできる社会を！
No.369 (8-9月号)	人間を幸せにするロボットの真像
No.370 (10-11月号)	「お・も・て・な・し」を超えるホスピタリティの本質を考える
No.371 (12-1月号)	寄付のススメー寄付月間スタートに寄せて
No.372 (2-3月号)	障がい者スポーツに見るフェアプレーの本質

(機関誌「フィランソロピー」の発行内容は、資料編 p.24 をご参照ください)



## 冊子／調査レポート

### マッチングギフト制度からみた 企業による CSR・社会貢献における社会参画の推進に関する アンケート調査レポート

企業の CSR・社会貢献活動における従業員参画の推進、および企業における個人寄付促進の方法の一つとして「マッチングギフト」に焦点を当て、実態と課題を探るためのアンケート調査を 500 社に対して実施しました。各社における今後の寄付推進プログラム導入の際に参考になることを目指し、調査結果を考察とともに報告書にまとめています。



(2015 年 6 月発行)

### お金から考える社会貢献学習 『チャリティーチャレンジ・プログラム』 ガイドブック

「チャリティーチャレンジ・プログラム」は、「募金・寄付」活動を通して、実社会で「生きる力」を育む社会貢献学習プログラムです（事業の詳細は p.20 を参照）。小学校高学年から中学校の先生方に、キャリア教育、福祉、公共などのさまざまなテーマで「総合的な学習の時間」で活用し、授業づくりの参考にさせていただくために、「お金から考える社会貢献学習 チャリティーチャレンジ・プログラム ガイドブック」を作成しました。



(2016 年 3 月発行)

### 『KIZUNA Story Book』

キリンググループが、2011 年より震災復興支援として取り組んでいる「復興応援 キリン絆プロジェクト」の中で、東北の経済基盤でもある農業を支援すべく取り組んできた、農作物のブランド育成支援、6 次産業化に向けた販路拡大支援、将来にわたる担い手・リーダー育成支援について、各プロジェクトのひとつひとつのストーリーをまとめた冊子を震災から 5 年の節目となる 2016 年 3 月に発行しました。

（「復興応援 キリン絆プロジェクト」に対する当協会の協力については、p.19 をご参照ください）



(2016 年 3 月発行)

# 顕彰事業

顕彰事業では、社会への貢献や社会の課題解決を目指す個人や企業による活動に光を当て、その思いやエピソードを広く紹介することで、寄付文化や社会貢献文化の醸成を目指しています。

## まちかどのフィランソロピスト賞

米国に比べて日本では寄付に対する評価がまだ低いのが現状ですが、寄付活動はボランティア活動に並ぶ社会貢献活動の両輪です。1998 年度に創設した「まちかどのフィランソロピスト賞」では、日本における「寄付文化の醸成」を目的として、社会のために私財を投じた「個人」を顕彰しています。2005 年に「青少年部門」を設け、2010 年度からは文部科学省の後援のもと「青少年フィランソロピスト賞」として内容を拡充し、次世代を担う子どもたちの寄付活動を推奨しています。

第 18 回まちかどのフィランソロピスト賞は、書類選考やヒアリングを経て、贈呈先を以下の通り決定。2015 年 12 月 15 日、東京都千代田区の学士会館にて贈呈式を開催しました。



学士会館で行われた贈呈式

### <一般部門>

「まちかどのフィランソロピスト賞」 佐藤 忠氏  
「特別賞」 雫 有希氏

### <青少年部門>

「文部科学大臣賞」 兵庫県加東市立社小学校  
「奨励賞」 神戸市立白川台中学校  
千葉県立銚子商業高等学校

### <選考委員>

委員長 出口 正之氏（国立民族学博物館 教授）  
委員 加古 久美子氏（ロート製薬株式会社）  
// 小林 征人氏（大和ハウス工業株式会社）  
// 櫻井 真理子氏（株式会社リコー）  
// 二宮 かおる氏（カルビー株式会社）

## 企業フィランソロピー大賞

「企業フィランソロピー大賞」では、社会課題に真摯に向き合い、経営ビジョンに基づいて、本業をはじめ自社の経営資源を活かし、社会の課題解決に資する活動や新たな価値創造を牽引する企業を2003年度から顕彰しています。事業形態や規模の大小に関係なく、社会課題の解決に力を注ぐ全国の企業やプロジェクトが対象になります。

第13回企業フィランソロピー大賞は、自薦や他薦による計37件から、書類選考やヒアリングを経て、贈呈先を以下の通り決定。2016年2月16日、東京都千代田区のプレスセンターホールにて贈呈式を開催しました。



プレスセンターで行われた贈呈式

### <企業フィランソロピー大賞>

株式会社リクルートホールディングス 受賞活動：「ホンキの就職」

### <企業フィランソロピー賞>

【寄り添うキッチン賞】味の素グループ

受賞活動：「東北支援『ふれあいの赤いエプロンプロジェクト』」

【こころの劇場賞】四季株式会社

受賞活動：「『こころの劇場』、『美しい日本語の話し方教室』」

【希望のステッカーアート賞】株式会社スタイリングライフ・ホールディングス

受賞活動：「グループ全社活動『Heartful Bird』」

【生きるは幸せ賞】株式会社特殊衣料

受賞活動：「障がい者の積極雇用と充実した支援体制」

### <選考委員>

委員長 武田 晴人氏（東京大学名誉教授）

委員 岩田 喜美枝氏（株式会社資生堂 顧問、公益財団法人21世紀職業財団 会長）

// 佐藤 雄二郎氏（一般社団法人共同通信社 専務理事）

// 渋澤 健氏（コモンズ投信株式会社 取締役会長）

# 研修事業

フィランソロピーについて知り学ぶ機会としては、毎月東京で開催している「定例セミナー」、大阪で開催している「フィランソロピーセミナー in 関西」、および協会の会員企業の CSR・社会貢献担当者を対象とした学びと協働の場「Stone Soup Club」を設置しています。

## 定例セミナー

1991 年度にスタートした「定例セミナー」では、基本的に毎月、企業の CSR・社会貢献担当者だけでなく、NPO 職員やフィランソロピーに関心を持つ個人や学生を対象に、各分野の第一線で活躍されている学術研究者や先進事例を有する企業の担当者を講師に迎え、講演会を開催しています。フィランソロピーに関する理論や活動の現状を知り、問題意識を持ち、活動ノウハウを蓄積するだけでなく、講師や他の参加者とのネットワーキングの機会にもなっています。

2015 年度は、13 回開催、のべ 639 名の方にご参加いただきました。（詳細は、資料編 p.25 をご参照ください）

実施回（月）	テーマ
第 304 回（4 月）	『里山資本主義を活かした企業経営のあり方』
第 305 回（5 月）	CSR 基礎講座 第 1 回 『企業における CSR 担当者の役割と期待されること』
第 306 回（6 月）	CSR 基礎講座 第 2 回 『社会課題の解決に資する CSR 経営と社会貢献活動および他セクターとの協業』
第 307 回（6 月）	CSR 基礎講座 第 3 回 『今後の社会を見据えた、CSR 全体および社会貢献のあり方』
第 308 回（7 月）	『今こそ求められる、経営倫理の理論と実践』
第 309 回（8 月）	『映画「みんなの学校」上映会と対談』
第 310 回（9 月）	『子どもの貧困』
第 311 回（10 月）	『環境NGOの現状と企業の連携』
第 312 回（11 月）	『なつかしい未来を創る』
第 313 回（12 月）	『見たくない未来がやってくる』
第 314 回（1 月）	『フィランソロピー・ミッションを達成するための交渉学入門』
第 315 回（2 月）	『事業所主体の社会貢献活動の推進』
第 316 回（3 月）	『今、企業に期待される長期的・日常的な被災地支援とは』



### <セミナー内容の紹介>

第 310 回では、子どもの貧困の問題を取り上げました。日本の子どもの 6 人に 1 人が貧困状態にあると言われる現在、親の経済状況が子どもに及ぼす影響は深刻で、学力だけでなく健康や自尊心も損なわれていくという報告もあります。また、世代間で貧困が連鎖するケースも少なくありません。セミナーでは、貧困問題研究の第一人者であり、2008 年に日本で初めて「子どもの貧困」についての著書を書かれた阿部彩先生をお招きし、客観的なデータをご紹介いただくとともに、地域社会がこの課題に何ができるかをディスカッションしました。

## フィランソロピーセミナー in 関西

首都圏以外では、地域版のセミナーとして、大阪で「フィランソロピーセミナー in 関西」を開催しました。2015年度は隔月にて行い、テーマ設定などには、幹事企業として大阪ガス株式会社、積水ハウス株式会社のご協力をいただきました。2015年度は、6回開催し、のべ149名の方が参加しました。（詳細は、資料編 p.26 をご参照ください）

実施回（月）	テーマ
第15回（6月）	『効果的なCSRステークホルダーコミュニケーションとそれを支える経営体制』
第16回（7月）	『関西企業の企業家精神と創業者イズムの継承～創業者の社会的理念を企業活動に生かすには～』
第17回（9月）	『企業間連携、拠点間連携、NPOとの連携を活かして、社会貢献活動をどう広げるか～フェアトレードの事例から～』
第18回（11月）	『子どもの貧困の問題に対し企業が果たせる役割～地域の最前線で働くNPOの代表との対話を通して～』
第19回（1月）	新春特別企画『ボードレスで、みんな、しあわせ』～イタリア映画と対談のタベ～
第20回（3月）	『社会貢献活動の継続と展開』～社員参加を高め活動を深める工夫～

### <セミナー内容の紹介>

2016年1月には、新春特別企画として、『ボードレスで、みんな、しあわせ～イタリア映画と対談のタベ～』と題して、フィランソロピー映画の鑑賞と、思索を深める対談を行いました。映画は、精神障がいを取り上げ、イタリア中で大ヒットした笑いと涙の映画「人生、ここにあり！」を上映。その後、障がい者支援の第一人者の北岡賢剛氏を迎え、当協会理事長の高橋陽子と対談しました。



## Stone Soup Club

Stone Soup Club は、会員企業の CSR・社会貢献担当者を対象とした、共に学び、考え、議論し、協働型の社会貢献活動を企画・実施するフォーラムです。座学だけでなく、グループディスカッション中心のワークショップや、体験会・見学会、また協働して実施する社会貢献プロジェクトなどがあります。企画立案には、幹事企業として、朝日生命保険相互会社、キッコーマン株式会社、クラシエホールディングス株式会社、のご協力をいただきました。（詳細は、資料編 p.26 をご参照ください）

実施回（月）	テーマ
第35回（5月）	フェアトレードセミナー『フェアトレードを知り、参加しよう』
第36回（6月）	『CSR・社会貢献プログラムにいかに関心を巻き込むか（続編）』
第37回（12月）	『子どもの貧困における複合的原因と支援の可能性』
（11月～1月）	『被災地の子どもたちに絵本を届けるクリスマスプロジェクト』（3年目）
第38回（3月）	『障がい者スポーツを通じて共生社会を考える』

### <活動の紹介>

SSC から生まれた企業横断型連携プロジェクトとして、NPO 法人「地球の楽好」の協力のもと、『被災地の子どもたちに絵本を届けるクリスマスプロジェクト』を実施し、3年目となりました。これは、当協会の会員企業の皆様に、家庭で眠っている子ども向け絵本の寄贈を呼びかけ、東日本大震災で多くを失った子供たちに、クリスマスプレゼントとして寄贈するプロジェクトです。3年目の今回は 6,789 冊が集まり、3年間での寄贈冊数は合計で 11,284 冊となりました。





# 企業の CSR 支援 事業

CSR 支援事業では、企業が社会貢献活動を実施する際の実施支援を行っています。社会貢献プログラムの企画立案や事務局代行だけでなく、従業員ボランティアプログラムの活動先とのマッチングや、社内募金などを原資とした寄付や助成プログラムにおける NPO などの支援先の調査選定・マッチングを行っています。企業、および、従業員など個人のフィランソロピー文化の醸成のため、支援先との顔の見える関係づくりに資することを意識しています。

## 従業員ボランティア推進プログラム

当協会では、企業の従業員の社会参加促進のため、会員企業の従業員ボランティアのプログラム企画開発や、受け入れ団体の紹介および調整、事前・事後研修、運営協力等を行っています。2015 年度には、のべ 11 社のボランティアプログラムの開催をサポートしました。（詳細は、資料編 p.27 をご参照ください）

以下には、当協会が事務局として企画運営を担当し、通年で実施している事例をご紹介します（五十音順）。通年実施のほか、単発的な開催の企画・実施も行っております。

### < アクセンチュア株式会社 >

コーポレート・シチズンシップ（企業市民活動）として、Skills to Succeed（スキルによる発展）と呼ぶグローバル統一のテーマのもとに、「人材スキルの向上」に関わるさまざまな活動を推進しています。その一環で、幅広い社員が短時間で気軽に参加できるボランティアプログラムを年間で計画し、実施。2015 年はプロジェクトや部署単位での参加を推奨することで、より多くの社員参加を実現しました。また、新入社員研修の期間中に、先輩社員と一緒に社会貢献が出来るプログラムや、週末に家族や友人と一緒に参加できる環境活動や農援活動も開催しています。



環境にやさしい野菜づくりを目指す  
福祉農園の手伝い



カンボジアの子どもに贈る人形になる  
端布の裁断作業

### < MSD 株式会社 >

「患者家族支援」、「高齢者支援」、「環境保全・地域清掃」、「被災地支援」の分野で、従業員が気軽に参加できるボランティアプログラムを、年間で計画を立てて実施しています。プログラムは、社内で行う活動と NPO や福祉施設を訪問して行う活動の 2 種類があります。



都内の高齢者デイサービスで利用者の方  
と一緒にパステルアート作品づくり



入院中の子どもの家族に贈る  
リールキーづくり

## <株式会社オリエントコーポレーション>

日本フィランソロピー協会が運営する「ボランティアウェブ」をご利用中。「ボランティアウェブ」は、ウェブ上のカレンダーから地域や活動プログラムを選んで参加申し込みができるボランティアのマッチングサイトで、会員企業が共同で利用できるサイトとして、2015 年から運用を開始しています。

## <株式会社ジェーシービー>

### 『JCB 社会貢献プログラム』

2011 年、創立 50 周年を契機に開始した取り組みで、全役職員が年 1 回以上社会貢献活動に参加するという CSR 活動。通年・全拠点・業務扱いで実施していることが大きな特徴です。



国際協力 NGO 事務所での使用済み切手の仕分け作業



本社と支社をテレビ会議で繋いで複数拠点での同時開催を実現。この日は、木育として活用される木のタマゴづくり

## <積水化学工業株式会社>

### 『Heart+Action』

本社から呼びかけを行なって、実施を希望する支社や工場、研究所の会議室で、国際協力や子ども支援につながるプログラムを実施。ノー残業デーなどの就業後の 1 時間を活用し、社員一人ひとりが気軽に参加できるよう工夫されています。



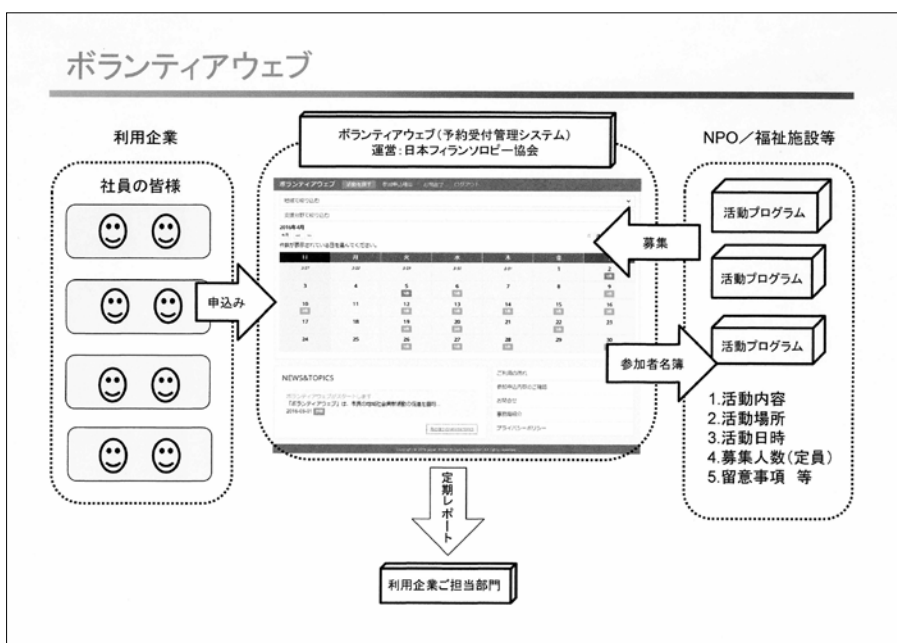
日本の絵本に現地語の翻訳シールを貼ってアジアの子どもたちに贈るプログラム



外貨コイン仕分けプログラム

## 【ボランティアウェブとは】

従業員の社会参加の促進、従業員のコミュニケーション力・チームワーク力の醸成、および他社の従業員との協働の機会の提供を目的に、様々なボランティア募集の情報をウェブサイト上で提供するプログラム。利用企業の従業員の方々はウェブサイトから全国の主要都市で実施される様々な分野のボランティアプログラムを選び、直接参加申し込みができます。



## 寄付推進プログラム（フィランソロピーバンク）

個人の寄付文化の醸成、NPO 等の非営利団体の財政基盤強化を目的に、「フィランソロピーバンク」というプログラムを実施しています。本プログラムは、企業による寄付、もしくは、社員や顧客など企業のステークホルダー個々人の寄付を NPO 等の非営利団体につなぐもので、寄付者の意向を反映しつつ、当協会が寄付先の発掘・調査・選定を行い、寄付後の団体へのフォローアップや、寄付者への寄付活用の報告までの一連のプロセスを企画・運営します。本プログラムは企業のみならず、個人の寄付者にも活用いただけます。2015 年度には、8 社、1 個人のプログラムを運営し、のべ 93 団体に総額 9,9091,537 円の寄付をつなぎました。（2015 年度の支援先のリストについては、資料編 p.28 をご参照ください）

### < 2015 年度フィランソロピーバンク活用実績一覧 >

企業・個人	寄付内容
株式会社 NTT データ	社内チャリティーイベントで集まった寄付金を、障がい者と IT という 2 つの分野で活動する NPO 3 団体に寄付。
株式会社かんぽ生命保険	保険商品でウェブ約款を選択した顧客数に応じ寄付金を拠出するプログラムで環境分野の NPO 13 団体に寄付。
株式会社ジェーシービー	東日本大震災復興支援の取組みとして実施。東北 3 県の被災地で活動する 22 団体に寄付。
株式会社ファンケル	顧客のポイントを金額換算し、全国 10 ヶ所の重度心身障害者施設、および東日本大震災の遺児・孤児のための奨学金基金に寄付。
FIL Foundation	NPO の基盤整備を目的として 3 団体に寄付。
株式会社みずほフィナンシャルグループ	社員による寄付を、様々な分野で社会課題の解決に取り組む NPO 4 団体に寄付。
株式会社三井住友銀行	社員による寄付を、コミュニティ・次世代・環境の分野の 20 団体、および、社員がボランティアをしている 10 団体に寄付。
明治安田生命保険相互会社	チャリティー・コンサートによる募金を、東北 3 県において、次世代育成の分野で活動する 6 団体に寄付。
個人 1 名	被災地の教育支援として 1 団体に寄付。



宮城の漁業の再興を目指す一般社団法人フィッシャーマン  
ジャパン



経済的な困難を抱える家庭の子どもたちに、夕食を共に食べ、  
宿題をする場を提供する特定非営利活動法人西淀川子どもセンター



里山保全に取り組む、特定非営利活動法人しずおか環境  
教育研究会



小学校にて体験型環境教室を実施する特定非営利活動法人エコけん



## 助成事業支援

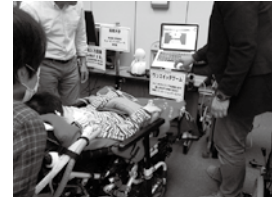
助成事業支援では、公募で行う企業の助成プログラムの支援を行っています。

田辺三菱製薬株式会社が実施する「手のひらパートナープログラム」は 2015 年度に 4 期目を迎え、難病患者団体およびその支援団体への助成を支援し、16 団体への助成をつなぎました。

また、日本たばこ産業株式会社が実施する、地域コミュニティの再生と活性化に取り組む NPO を支援する「JT NPO 助成事業」の審査プロセスの支援も行っています。

### <手のひらパートナープログラム 第4期 助成先一覧>

団体名	事業名
SMA 家族の会	スイッチ・コミュニケーション機器&ホスピタル・プレイ体験・相談会 in 北海道
日本 ALS 協会	ALS と共に闘い歩む一生のための制度活用術一（ケア編）
北海道脊柱靭帯骨化症友の会	医療過疎地域で開催する家庭でできるリハビリキャラバン
日本 ALS 協会 北海道支部	札幌・函館・北見へ喀痰吸引等（特定の者）の研修会
IBD ネットワーク	小中学校教諭向け IBD ガイド作成普及事業
全国パーキンソン病友の会 大阪府支部	ニーズアンケート「パーキンソン病患者と家族の今と将来」報告書作成とシンポジウム開催
北海道潰瘍性大腸炎・クローン病友の会	北海道の IBD 医療困難エリアにおける医療普及活動
日本慢性疾患セルフマネジメント協会	難病など完治が難しい病気を持つ人の自己管理支援ワークショップと同窓会の開催
Kukuru	医療的ケアが必要な方の在宅移行支援事業
Future Dream Achievement	網膜色素変性症による中途視覚障がい者の生活・就労支援のための器材整備事業
あすなろ会（若年性特発性関節炎の子を持つ親の会）	あすなろ会ジュニア（患児）の組織の充実化・ネットワーク作りリーダー研修
パーキンソン病支援センター	パーキンソン病の方の食環境改善事業 「食べるメラボ」
マルファンネットワークジャパン	患者会が医療専門家の執筆協力を得て行う「マルファン症候群ガイドブック」第三版作成事業
ALD の未来を考える会	副腎白質ジストロフィー患者の QOL 向上のための活動
和歌山県難病の子ども家族会	輝け・病気の子どもたち！リゾートキャンプ
岩手県難病・疾病団体連絡協議会	難病患者の生きがいづくり・社会参加事業



SMA（脊髄性筋萎縮症）家族の会。体の動きに制約のある子どもたちのコミュニケーション、遊びを促進する機器を体験



日本 ALS 協会岩手県支部「重度訪問介護従事者養成講座」

## さまざまな社会貢献活動・人材育成支援

当協会では、寄付活動やボランティア活動だけでなく、様々な社会貢献事業を支援しています。

6 月には、敷島製パン株式会社が実施する中高生向けの社会貢献プログラム「国産小麦ゆめちから栽培研究プログラム」の一環で、食料自給率を考えるワークショップを企画・コーディネートしました。

また、6 月と 9 月の 2 回、日本製紙株式会社が群馬県の菅沼社有林で小学生親子を対象に行う環境教育プログラム「森と紙のなかよし学校」の実施を支援。

同じく 9 月には NEC ソリューションイノベータ株式会社が地域課題の解決を事業に取り入れていくことを目的とした社員研修プログラム「カダイ解決フィールドワーク」において、千葉県でのフィールドワークの実施支援や報告会における講評を務めました。



国産小麦ゆめちから栽培研究プログラム



森と紙のなかよし学校



カダイ解決フィールドワーク

# NPO 人材育成支援

## 「アメリカン・エクスプレス・リーダーシップ・アカデミー ～ NPO リーダーのためのリーダーシップ育成プログラム～」

当協会は、アメリカン・エクスプレス財団の助成金のもと、国内の NPO・NGO で働く若手職員を対象にした合宿形式のリーダーシップ研修の企画・運営を行っています。2015 年度の助成金では、2016 年 2 月に東京で開催し、さらに翌年度の 5 月に福岡にて、同様の研修を実施しました。当プログラムは 2009 年から毎年実施しており、これまでに全国 32 都道府県から 224 名が受講しています。

### 概要

#### < 2016 年 2 月の実施内容 >

日時：2016 年 2 月 25 日（木）から 27 日（土）2 泊 3 日

会場：都市センターホテル会議室（東京都千代田区）

総合監修：米倉誠一郎氏

（一橋大学イノベーション研究センター長）

研修参加者：全国からの NPO 次世代リーダー 32 名

（公募および推薦による）

#### プログラム：

##### < 基礎講座（理念・哲学） >

- ・「見たくない未来を超えて」（米倉誠一郎氏）
- ・「率先垂範のリーダーシップ論」（米倉誠一郎氏）

##### < 実務講座（業務遂行能力） >

- ・「ロジカルシンキングと問題解決スキル」
- ・「モチベーション・マネジメント」
- ・「交渉学」
- ・「アメリカン・エクスプレスのリーダーシップ論」等

##### < グループワーク >

- ・ビジョンワークによる、社会的課題の再認識、掘り下げ、共有
- ・課題に対する企画の作成およびプレゼンテーション準備
- ・気づきのシェアリング「フィールドワーク」（ビッグイシュー道端留学）
- ・課題プレゼンテーション



10 年後のあるべき未来を絵に描く  
「ビジョンワーク」（東京）



総合監修・米倉誠一郎先生  
（一橋大学イノベーション研究センター長）  
による基礎講座（東京）



修了証を手にした研修生（福岡）

## 東日本大震災の被災地支援

### 復興応援 キリン絆プロジェクト



第2ステージ支援先の福島果樹農家のみなさん

#### 「復興応援 キリン絆プロジェクト 農業支援 第2ステージ」

被災地の基幹産業の一つである農業において、「農作物のブランドの育成支援」、「6次産業化に向けた販路拡大支援」、「将来にわたる担い手・リーダー育成支援」をテーマに支援を行ってきました。2015年は、風評被害など依然として厳しい状況に置かれている福島県の農業に対して追加支援を行い、8件の助成を行いました。（支援プロジェクトのリストは、資料編 p.29 をご参照ください）



「最終プレゼンテーション」での受講生集合写真

#### 「東北復興・農業トレーニングセンタープロジェクト」

農業における次世代リーダーの人材育成と、新しい農業への取り組みを支援するため、2013年から開始。丸の内朝大学と連携し東京のビジネスプロフェッショナルを対象にした「農業復興プロジェクトメンバーズカリキュラム」と、東北の農業経営者を対象とした「農業経営者リーダーズネットワーク」で構成されています。2015年度は3期目で、これまでに、のべ東京124名、東北84名が参加しています。

## 東日本大震災復興支援 サントリー東北サンさんプロジェクト チャレンジド・スポーツ支援事業

### 「チャレンジド・アスリート奨励金」

2015年度は、公募ののち、団体25団体、個人51名、総額3,200万円を給付しました。

#### ＜審査員＞ 5名

大槻 洋也氏（至学館大学 健康科学部 健康スポーツ科学科 教授）  
河合 純一氏（パラリンピアン：競泳、一般社団法人日本パラリンピアンズ協会 会長）  
福留 史朗氏（パラリンピアン：陸上、一般社団法人日本パラリンピアンズ協会 理事）  
増子 恵美氏（パラリンピアン：車椅子バスケットボール、一般社団法人日本パラリンピアンズ協会 理事）  
高橋 陽子（公益社団法人日本フィランソロピー協会 理事長）

### 「チャレンジド・スポーツアカデミー」

障がい者スポーツに対する理解を深めるため「アスリート・ビジット」として、チャレンジド・アスリートなどが3県の学校を訪問し、子どもたちに対する講演や競技体験会などを実施しました。また、一般の方向けにも、公募により「チャレンジド・スポーツ体験教室」を実施しました。



チャレンジド・スポーツ体験教室で車椅子バスケットボールを体験する参加者

### 「チャレンジド・スポーツ育成サポート」

障がい者スポーツの基盤強化・環境整備を支援するための施設改修や用具寄贈に加えて、車椅子導入教室を実施しました。まず、岩手県にて、2016年3月に、橋本大佑氏（ドイツ障害者スポーツ連盟公認リハビリテーションスポーツ指導者）および上原大祐氏（2010年バンクーバー・パラリンピック銀メダリスト（アイスレグジュホッケー））を招いて、車椅子導入教室を行いました。今後も順次行っていく予定です。

（「東日本大震災復興支援 サントリー東北サンさんプロジェクト チャレンジド・スポーツ支援事業」の詳細は、資料編 p.29 をご参照ください）



# 次世代育成 事業

将来を担う子どもたちを対象に、寄付・募金活動を核とした社会貢献活動を推進し、自己肯定感などの人間としての成長支援、コミュニティへの参画意識の向上などとともに、寄付文化の醸成を目指します。

## チャリティーチャレンジ・プログラム



募金のテーマを決めるディスカッション



実際の募金活動の様子



募金の贈呈式の開催

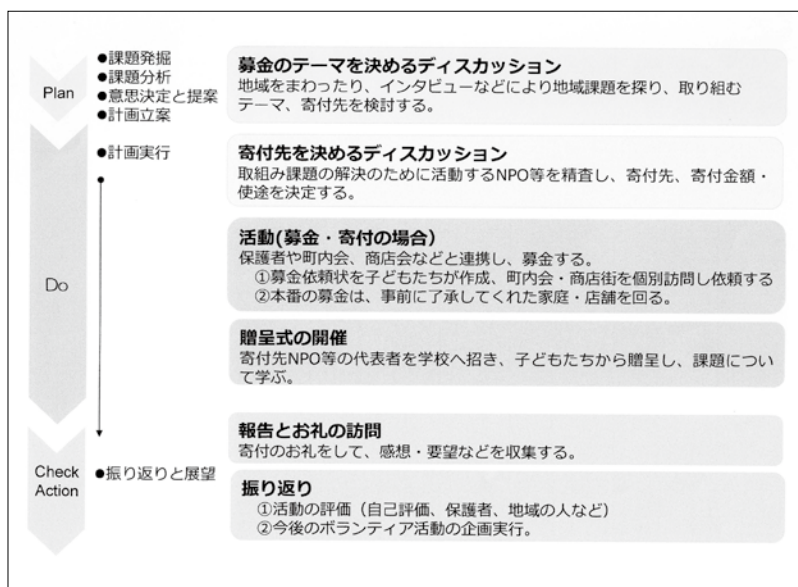


募金活動についての振り返り

募金・寄付を核とした社会貢献学習「チャリティーチャレンジ・プログラム」は、子どもたちが解決したい課題を話し合い、募金活動をして、社会に役立つ寄付をする社会貢献学習プログラムです。「募金・寄付」活動を通して地域社会を見つめ、さまざまな人とかかわる中で、自己肯定感を高め、実社会での「生きる力」を育みます。

2015年度は、「授業（活動）づくり研究会」「中学生が核になる高齢者、障害者等支援を通じた地域共生促進事業（公益財団法人JKA補助事業の助成による）」「お金から考える社会貢献学習～チャリティーチャレンジ・プログラム ガイドブック」の作成、「お金から考える社会貢献学習シンポジウム」を実施しました。

### ＜チャリティーチャレンジ・プログラム 実施の流れ＞



## チャリティー・リレーマラソン

2011年度から始まった「チャリティー・リレーマラソン」は、中学生による被災地の復興支援活動です。東北と東京の中学生が、自分たちで被災地の現状と課題を考え、募金活動とリレーマラソン、ボランティア活動などを行います。

2015年度は、5月に東北参加校による被災地の現状と課題を話し合う「東北熟議」をはじめとして、「東京熟議」「東京校による募金活動」、7月には「東京での合同の募金活動」「チャリティー・リレーマラソン」があり、その後「東京参加校の被災地訪問」「東北参加校のボランティア活動」「寄付金使途報告会」が実施されました。集まった募金 3,224,931 円は、東北参加校のボランティア活動を通して、各地での支援活動に使われました。

### <プログラムの流れ>



東京各地での合同募金



先導自転車、伴走など多くのボランティアが生徒を見守った



東北スタディツアー。岩手県陸前高田の現況を高台から確認。同県大船渡、釜石も訪問し、地元の方々との交流を通じて、被災者の厳しい現実を学んだ

### 参加校

#### 【東北】

- ・岩手県大船渡市立大船渡中学校
- ・岩手県大船渡市立吉浜中学校
- ・岩手県大船渡市立日頃市中学校
- ・宮城県石巻市立蛇田中学校
- ・宮城県東北学院中学校
- ・福島県いわき市立勿来第一中学校

#### 【東京】

- ・中央区立銀座中学校
- ・墨田区立両国中学校
- ・江東区立有明中学校
- ・江東区立深川第一中学校
- ・北区立浮間中学校
- ・練馬区立大泉中学校
- ・立川市立立川第七中学校

特別協賛：EY Japan / 新日本有限責任監査法人

協賛：アサヒグループホールディングス株式会社、MSD 株式会社、クラシエホールディングス株式会社、株式会社ジェーシービー、トヨタ自動車株式会社、華為技術日本（ファーウェイ・ジャパン）株式会社、三菱地所株式会社



マラソン後の記念撮影。中学生、企業ボランティア総勢約 200 名

# 共生社会づくり 推進事業

企業の影響力の大きな日本社会の特性から、当協会では、企業フィランソロピーを推進することで、企業を牽引役とした、従業員など個人のステークホルダーの社会参加・社会貢献の啓発・推進をすすめています。その目的は、一人ひとりの市民が社会を創る一員として、主体的に社会参加・社会貢献をするフィランソロピー社会の実現です。

これからも個人フィランソロピーの推進のために、活動を進めていきます。

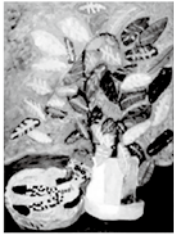

## フィランソロピー名刺～1枚の名刺からはじめる社会貢献～

「フィランソロピー名刺」は、当協会が提唱する名刺を通じた社会貢献活動です。

障がいや難病などハンディキャップのあるアーティストの作品を名刺に掲載し、名刺の受注で得た収益を、アーティストや所属団体に還元。名刺の印刷も福祉作業施設に委託し、プロジェクト全体で障がい者の就労の機会を創出します。

彼らの個性的で魅力ある作品を楽しんでいただきながら、名刺を通して会話が弾み、温もりのあるコミュニケーションにつながることを願っています。

- 2015 年度末アーティストの作品数：83 作品
- 2015 年度 制作件数：333 件（1 件／100 枚）

 <p>「ボトス」 湯山 猛 洋 製作印刷（財）新宿区勤労者・仕事支援センター</p>	 <p>「魚たち」 瀧口 正 洋 製作印刷（財）新宿区勤労者・仕事支援センター</p> <p>団体名……………</p> <p>氏名……………</p> <p>住所……………</p>
--	--

◆ 仕様

【紙 質】0.22mm 186/m<sup>2</sup> マット両面クリーム  
 【カラー】文字：ブラック 作品・ロゴ：4色（フルカラー）  
 【サイズ】横 90mm × 縦 55mm（横型）  
 【掲載作品】当協会ウェブサイトの「作品カタログ」からお選びください。

◆ 料 金（製版＋印刷代）

100 枚 2,592 円～（両面印刷、ロゴ入り等によって料金は異なります。税込、郵送料別途）  
 ※詳細は協会ウェブサイトをご参照ください。

◆ 注文方法

協会ウェブサイトからお申込みください。 <http://www.philanthropy.or.jp/meishi>

# スタッフ紹介

自分自身が、人のことを慮り行動できる、心に余裕のある人間でありたいと思うと同時に、どんな人も各々の立場でお互いを思いやれるようになると、より成熟した社会になるのではないかと考えています。

職責は、当協会の事務局のとりまとめとともに、被災地支援、セミナー運営、Stone Soup Clubを担当しています。会員企業の方々と支援先の方々、また会員企業の担当者同士が、顔が見える温かい関係になれるよう、中間支援組織として今後も努力したいと思っています。引き続きどうぞ宜しくお願いいたします。

**落合 敦子（事務局長）**

企業が、社員や顧客と協力して行う寄付を非営利セクターに繋ぐプログラムの運営や、社員による寄付先団体でのボランティアのコーディネーション、助成金事業の審査などを担当しています。企業の社員、非営利団体の職員、そして団体が活動を通して、支援をする人々それぞれが変化をすることに貢献したいと思っています。

**内田 陽子**

2015年9月から職員となり機関誌の編集を担当しています。機関誌は当協会のミッションのもと、社会の課題解決や新たな価値創造に向け行動する、フィランソロピー社会実現を推進する重要な役割がありますので、毎回編集には緊張します。慣れないことばかりのなか、取材でお会いする方々からさまざまなことを学ばせていただき、シニアにして勉強勉強の毎日です。

**近藤 尚子**

2011年5月に入職しました。支援を必要としている方々の思いと、何かしたいと思っている方々の思いをつなげ、地域社会により良い成果を生み出すことを心掛けながら、修行の日々です。災害支援の寄付や社員ボランティア、中学生を対象とした「青少年へのシチズンシップ教育」事業を担当しています。

**藤川 祥子**

チャレンジド・スポーツの選手や団体の代表の方と話す時間が多く、2020年にむけて現状を勉強する年度となりました。

2020年以降も障害のあるなしに関わらず、地域で人々が集い、豊かな生活ができるような道を検討していきたいと思っています。

**青木 高（事務局次長）**

2007年に入職し、その際に中間支援組織はしっかいや悉皆屋のような役割だと教わりました。呉服問屋とお客様の間で、仕立から洗い張りまで文字通りことごと悉く取次ぐ仕事だそうです。いまだ御用聞きもきちんと出来ていない自分ですが、常に「その企業に一番似合う社会貢献とは何か」を考える事を心掛けるようにしています。

**加勢川 佐記子**

2011年に入職以来、経理、庶務を担当しています。裏方の仕事ですが、社会を良くしたいという志のあるスタッフが気持ちよく働けるようサポートすることは、その志を支え、結果的にその先につながる人々を微力ながら応援することになると、喜びを感じています。

**谷村 節子**

仕事を通じて得た、ハッとするような言葉や、生き方を教えられる方々とのたくさんの出会いに感謝しています。「まちかどのフィランソロピスト賞」、企業のCSR・社会貢献プログラムの事務局業務、「青少年へのシチズンシップ教育」事業を担当しています。今後とも宜しくお願い致します！

**宮本 栄**



## 機関誌（過去 3 年の発行内容）

月 / No.	内 容	巻頭インタビューのテーマ	巻頭インタビュー・インタビュイー
<b>2013 年度</b>			
4 月号 No.355	特集 1：「私」からはじまるリーダーシップ 特集 2：第 10 回企業フィランソロピー大賞	これからのリーダーシップに必要なものは？	金井 壽宏氏 (神戸大学大学院 経営学研究科教授)
6 月号 No.356	地方自治を支える—行政・企業・市民の共創	「共感」から「信頼」へ ～行政と市民の「新しい協働」のかたち	林 文子氏 (横浜市長)
8 月号 No.357	税金・寄付・投資の関係を考える	社会的事業の育成と支援を「ベンチャー・フィランソロピー」の手法で取り組む	白石 智哉氏 (一般社団法人ソーシャル・インベストメント・パートナーズ 代表理事)
10 月号 No.358	縁側文化を取り戻そう	「東京もシンガポールも上海も俺らのまち」 “ホームアジア” で広がる縁側文化	後藤 健市氏 (地域活性化仕掛け人)
12 月号 No.359	地域メディアの力を探る —民主主義の試金石—	紙＋電波＋インターネット 3つのメディア が混在する社会がつくる現地点と未来の姿	小川 一氏 (毎日新聞執行役員東京本社 編集編成局長) 津田大介氏 (ジャーナリスト/メディア・アクティビスト)
2 月号 No.360	企業の震災復興支援の現状と今後	難しいことはありません。正しいことを すればいい。	吉原 毅氏 (城南信用金庫 理事長)
<b>2014 年度</b>			
4 月号 No.361	特集 1：いのちを見つめる科学教育 特集 2：第 11 回企業フィランソロピー大賞	生きる力を育てる教育は農業にあると確信 しています	中村 桂子氏 (J T 生命誌研究館 館長)
6 月号 No.362	寄付育のススメ	長期投資と寄付で理想の社会を積極的に 創っていく	渋澤 健氏 (コモンズ投信株式会社 取締役会長)
8 月号 No.363	未来をつくるお寺の挑戦	仏教の価値観で社会により影響を与えて いく	松本 紹圭氏 (一般社団法人お寺の未来 代表理事)
10 月号 No.364	待ったなし、日本の森	あらゆるいのちへの優しさが美しい山を つくる	速水 亨氏 (速水林業 代表)
12 月号 No.365	多文化共生と「ダブルリミテッド」の現状	言葉の力を信じる子どもを育てたい	山根 基世氏 (アナウンサー)
2 月号 No.366	音楽が結ぶ人の心、人の力	「生きているだけですばらしい」と音楽で 伝えたい	小曽根 真氏 (ジャズピアニスト)
<b>2015 年度</b>			
4 月号 No.367	第 12 回企業フィランソロピー大賞 第 17 回まちかどのフィランソロピスト賞	—	—
6 月号 No.368	いつでもだれでもチャレンジできる社会を	元受刑者に心の羅針盤を授ける「職の親」	中井 政嗣氏 (千房株式会社 代表取締役)
8 月号 No.369	人間を幸せにするロボットの実像	ロボットと一緒に築く人間の幸福とは	前野 隆司氏 (慶應義塾大学大学院システム・ デザインマネジメント研究科委員長 / 教授)
10 月号 No.370	「お・も・て・な・し」を超えるホスピタリティの 本質を考える	お客様目線から生まれる日本一小さな航空 会社の魅力	吉村 孝司氏 (天草エアライン株式会社 代表 取締役社長)
12 月号 No.371	寄付のススメ—寄付月間スタートに寄せて	途絶えていた寄付文化を再び取り戻す好機	小宮山 宏氏 (株式会社三菱総合研究所 理事 長 / 寄付月間推進委員会 委員長)
2 月号 No.372	障がい者スポーツに見るフェアプレーの本質	長崎から世界の舞台へ 高校生アスリートの挑戦	車椅子バスケットボール選手 鳥海連志さん



## 定例セミナー（2015 年度 実績）

実施日	内 容	実施日	内 容
第 304 回 4 月 17 日	『里山資本主義を活かした企業経営のあり方』 ＜講師＞藻谷 浩介氏 株式会社日本総合研究所調査部研究員、株式会社日本政策投資銀行 特任顧問	第 311 回 10 月 28 日	『環境 NGO の現状と企業の連携』 ＜講師＞阿部 弘氏 積水化学工業株式会社 CSR 部環境経営グループグループ長 ＜講師＞佐野 郁夫氏 独立行政法人環境再生保全機構理事
第 305 回 5 月 25 日	CSR 基礎講座 第 1 回 『企業における CSR 担当者の役割と期待されること』 ＜講師＞金田 晃一氏 武田薬品工業株式会社コーポレート・コミュニケーションズ&パブリックアフェアーズ CSRヘッド	第 312 回 11 月 19 日	『なつかしい未来を創る』 ＜講師＞石田 秀輝氏（合同会社地球研究室代表）
第 306 回 6 月 9 日	CSR 基礎講座 第 2 回 『社会課題の解決に資する CSR 経営と社会貢献活動および他セクターとの協業』 ＜講師＞高橋 陽子 公益社団法人日本フィランソロピー協会 理事長	第 313 回 12 月 4 日	『見たくない未来がやってくる』 ＜講師＞ 米倉 誠一郎氏（一橋大学イノベーション研究センター教授） 川添 高志氏（ケアプロ株式会社 代表取締役社長、看護師・保健師） 吉野 慶一氏（Dari K 株式会社 代表取締役） 鳥巢 彩乃氏（株式会社リクルートホールディングス）
第 307 回 6 月 23 日	CSR 基礎講座 第 3 回 『今後の社会を見据えた、CSR 全体および社会貢献のあり方』 ＜講師＞関 正雄氏 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 CSR 部 上席顧問、公益財団法人損保ジャパン日本興亜環境財団 専務理事	第 314 回 1 月 26 日	『フィランソロピー・ミッションを達成するための交渉学入門』 ＜講師＞田村 次朗氏（慶應義塾大学法学部 教授）
第 308 回 7 月 24 日	『今こそ求められる、経営倫理の理論と実践』 ＜講師＞水尾 順一氏 駿河台大学大学院総合政策研究科教授	第 315 回 2 月 23 日	『事業所主体の社会貢献活動の推進』 ＜講師＞ 廣井 ゆりあ氏 （日本電気株式会社 コーポレートコミュニケーション部 CSR・社会貢献室 エキスパート） 岩橋 芳郎氏 （大和ハウス工業株式会社 CSR 部 社会責任グループ 主任）
第 309 回 8 月 25 日	『映画「みんなの学校」上映会と対談』 ＜講師＞迫川 緑氏 関西テレビ放送株式会社事業局事業推進部主事	第 316 回 3 月 23 日	『今、企業に期待される長期的・日常的な被災地支援とは』 ＜講師＞ 元田 久美子氏 （一般社団法人宮古観光文化交流協会 学防防災ガイド） 家田 えり子氏 （株式会社資生堂 サステナビリティ戦略部 戦略グループ マネージャー） 長沼 孝義氏（公益財団法人みちのく未来基金 理事長）
第 310 回 9 月 7 日	『子どもの貧困』 ＜講師＞阿部 彩氏 首都大学東京人文社会系都市教養学部社会学コース 社会福祉学 教授		

## フィランソロピーセミナー in 関西 (2015 年度 実績)

実施日	内 容
第 15 回 6 月 1 日	『効果的な CSR ステークホルダーコミュニケーションとそれを支える経営体制』 ＜講師＞福島 隆史氏 株式会社サステナビリティ会計事務所、サスティビー・コミュニケーションズ株式会社 代表取締役
第 16 回 7 月 21 日	『関西企業の企業家精神と創業者イズムの継承～創業者の社会的理念を企業活動に生かすには～』 (大阪企業家ミュージアム ガイド付き見学つき) ＜講師＞出口 正之氏 国立民族学博物館 教授 総合研究大学院大学 文化科学研究科 教授
第 17 回 9 月 28 日	『企業間連携、拠点間連携、NPO との連携を活かして、社会貢献活動をどう広げるか ～フェアトレードの事例から～』 ＜事例紹介＞株式会社 NTT データ、コニカミノルタビジネスソリューションズ株式会社、小川珈琲株式会社、特定非営利活動法人フェアトレード・ラベル・ジャパン
第 18 回 11 月 25 日	『子どもの貧困の問題に対し企業が果たせる役割～地域の最前線で働く NPO の代表との対話を通して～』 ＜講師＞徳丸 ゆきこ氏 大阪子どもの貧困アクショングループ (CPAO) 代表 ＜講師＞西川 日奈子氏 NPO 法人西淀川子どもセンター 代表 ＜講師＞村井 琢哉氏 特定非営利活動法人山科醍醐こどものひろば 代表
第 19 回 1 月 28 日	新春特別企画 『ボーダレスで、みんな、しあわせ』～イタリア映画と対談のタベ～ ＜映画鑑賞＞ イタリア映画「人生、ここにあり！」 ＜高橋理事長との対談＞ 『ボーダレスな人たちの魅力と可能性を語る』 社会福祉法人グロー理事長、ボーダレス・アート・ミュージアム No-Ma 設立者 北岡 賢剛 氏
第 20 回 3 月 14 日	『社会貢献活動の継続と展開』～社員参加を高め活動を深める工夫～ ＜講師＞塚田 晴久氏 大同生命保険株式会社 広報部 社会貢献活動推進担当部長 ＜講師＞岩橋 芳郎氏 大和ハウス工業株式会社 CSR 部 社会責任グループ 主任

## Stone Soup Club (2015 年度 実績)

実施日	内 容
第 35 回 5 月 14 日	フェアトレードセミナー『フェアトレードを知り、参加しよう』 ＜基調講演＞山本 良一氏 東京大学 名誉教授 ＜ワークショップ＞特定非営利活動法人フェアトレード・ラベル・ジャパン ＜事例紹介＞株式会社 NTT データ、コニカミノルタビジネス、ソリューションズ株式会社、大日本印刷株式会社
第 36 回 6 月 3 日	『CSR・社会貢献プログラムにいかにか社員を巻き込むか(続編)～オーストラリアの事例から社員参加型のプログラム開発を考える～』 ＜講師＞坂本 知嘉子氏 Homestay & Education Australia Pty Ltd
第 37 回 12 月 9 日	『子どもの貧困における複合的原因と支援の可能性』 ～ NPO の代表との対話から企業の社会貢献活動を考える～ ＜事例紹介＞ NPO 法人 キッズドア 理事長 渡辺 由美子 氏 NPO 法人 全国女性会館協議会 顧問 桜井 陽子 氏 NPO 法人 豊島子ども WAKUWAKU ネットワーク 理事長 栗林 知絵子 氏 事例紹介の後、パネルディスカッション
11 月～1 月 協働活動	『被災地子どもたちに絵本を届けるクリスマスプロジェクト』(3 年目) ＜協働 NPO＞ NPO 法人「地球の楽好」
第 38 回 3 月 2 日	『障がい者スポーツを通じて共生社会を考える』 ～最前線の現場で取り組む NPO の代表との対話から企業の社会貢献活動を考える～ ＜講師＞ 橋本 大祐 氏 ドイツ障がい者スポーツ協会公認 リハビリテーションスポーツ指導員 ＜講師＞上原 大祐 氏 2010 年バンクーバーパラリンピック・アイススレッジホッケー銀メダリスト。NPO 法人 D-SHIPS32 船長 (代表理事) 各講師からの講演の後、グループディスカッション

## 従業員ボランティア推進プログラム（2015 年度 実績）

社 名	協働団体
アクセンチュア株式会社	・ E S A アジア教育支援の会 ・ 幼い難民を考える会 ・ シャンティ国際ボランティア会 ・ 森のライフスタイル研究所
SMBCコンシューマーファイナンス株式会社	・ 自立援助ホーム「あすなろ荘」 ・ 森のライフスタイル研究所
MSD株式会社	・ 岩手ホスピスの会 ・ COCONET ・ 特別養護老人ホーム「サンサン赤坂」 ・ 東京クワニスクラブ ・ ソーシャルゴミ拾いピリカ ・ ファミリーハウス ・ 森のライフスタイル研究所
株式会社オリエントコーポレーション	・ 幼い難民を考える会 ・ 地球農園テラファーム
共栄火災海上保険株式会社	・ 森のライフスタイル研究所
株式会社ジェーシービー	・ 給食ボランティアグループ「赤とんぼ」 ・ COCONET ・ 東京クワニスクラブ ・ シャプラニール＝市民による海外協力の会 ・ シャンティ国際ボランティア会 ・ シェア＝国際保健協力市民の会 ・ 世界の医療団 ・ 地球農園テラファーム ・ 難民を助ける会 ・ 日本グッドトイ委員会 ・ 日本ハビタット協会 ・ ビッグイシュー基金 ・ ふくおかNPOセンター ・ ファミリーハウス ・ 港区社会福祉協議会 ・ 森のライフスタイル研究所 <div style="text-align: right;">(主な団体)</div>
新日鉄住金エンジニアリング株式会社	・ E S A アジア教育支援の会 ・ 森のライフスタイル研究所
積水化学工業株式会社	・ E S A アジア教育支援の会 ・ 日本ハビタット協会
大日本印刷株式会社	・ 石巻復興支援ネットワーク
フィリップモリスジャパン株式会社	当協会が従業員ボランティアプログラムの申込み受付を支援。
PGF生命	・ シャンティ国際ボランティア会 ・ 日本ケアフィット共育機構 ・ ファミリーハウス ・ 森のライフスタイル研究所

## 寄付推進プログラム（フィランソロピーバンク）（2015 年度寄付先一覧）

寄付元企業・団体・個人	事業名寄付先団体	寄付元企業・団体・個人	事業名寄付先団体
株式会社 N T T データ	日本障害フォーラム宮城（JDF 宮城） 特定非営利活動法人えじそんくらぶ 特定非営利活動法人エッジ	FIL Foundation	特定非営利活動法人 Homedoor 特定非営利活動法人カタリバ 特定非営利活動法人ノーベル
株式会社かんぽ生命保険	特定非営利活動法人森の生活 NPO 法人いわきの森に親しむ会 特定非営利活動法人トチギ環境未来基地 特定非営利活動法人よこはま里山研究所 特定非営利活動法人 JUON（樹恩）NETWORK 特定非営利活動法人森のライフスタイル研究所 特定非営利活動法人きんたろう倶楽部 特定非営利活動法人しずおか環境教育研究会 特定非営利活動法人自然と緑 特定非営利活動法人もりふれ倶楽部 特定非営利活動法人黒潮美感センター 特定非営利活動法人山村塾 特定非営利活動法人やんばる・地域活性サポートセンター	株式会社みずほフィナンシャルグループ	特定非営利活動法人キッズドア 特定非営利活動法人 NPO 昭和 特定非営利活動法人にわたりの会 特定非営利活動法人ニコちゃんの会
		株式会社三井住友銀行 テーマ選出 20 団体	特定非営利活動法人 iCare ほっかいどう 特定非営利活動法人せんだいファミリーサポート・ネットワーク 特定非営利活動法人 Teach for Japan 特定非営利活動法人育て上げネット 特定非営利活動法人 3keys 特定非営利活動法人青少年自立援助センター 特定非営利活動法人だいいじょうぶ 特定非営利活動法人 TENOHASI 特定非営利活動法人こども NPO 特定非営利活動法人ノーベル 特定非営利活動法人西淀川子どもセンター 特定非営利活動法人きょうとグリーンファンド 特定非営利活動法人エコけん 特定非営利活動法人地球市民の会 特定非営利活動法人環境修復保全機構 特定非営利活動法人アジア教育友好協会 特定非営利活動法人ソルトバヤタス 特定非営利活動法人ピープルズ・ホープ・ジャパン 特定非営利活動法人 IVY 特定非営利活動法人アジア・アフリカと共に歩む会
株式会社ジェシービー	特定非営利活動法人じぶん未来クラブ 特定非営利活動法人熱気球運営機構 特定非営利活動法人環境リレーションズ研究所 株式会社バガルト仙台 公益社団法人 sweet treat311 特定非営利活動法人カタリバ 一般社団法人フィッシャーマン・ジャパン 一般社団法人みやぎびっきの会 Arts for Hope 特定非営利活動法人郡山ベップ子育てネットワーク 特定非営利活動法人石巻復興支援ネットワーク 一般社団法人 SAVE TAKATA 特定非営利活動法人 TEDIC 特定非営利活動法人ひばり！！南三陸 特定非営利活動法人生活支援プロジェクトK 一般社団法人マザーウイング 特定非営利活動法人マザーリンク・ジャパン 特定非営利活動法人 FUKUSHIMA 水プロジェクト 特定非営利活動法人サンガ岩手 特定非営利活動法人ザ・ビーブル 特定非営利活動法人かーちゃんのかふくしま 一般社団法人三陸国際交流協会	社員ボランティア先 10 団体	特定非営利活動法人ようき・すなお会 社会福祉法人啓光福祉会 特定非営利活動法人聴覚障害教育支援大塚クラブ 社会福祉法人東京栄和会 一般社団法人まほろば 社会福祉法人千代田区社会福祉協議会 公益社団法人 CISV 日本協会 一般社団法人日本甲冑武具研究保存会 特定非営利活動法人山の自然学クラブ 特定非営利活動法人子供地球基金
		明治安田生命保険相互会社	特定非営利活動法人うれし野こども図書室 特定非営利活動法人こそだてシップ 特定非営利活動法人ににいるクレヨン 一般社団法人マザーウイング 特定非営利活動法人あぶくまエヌエスネット 一般社団法人福島復興ソーラー・アグリ体験交流の会
株式会社ファンケル	公益財団法人みちのく未来基金 社会福祉法人侑愛会 社会福祉法人花輪ふくし会 特定非営利活動法人くるみ 特定非営利活動法人フローレンス 社会福祉法人訪問の家（生活介護事務所 朋） 社会福祉法人高水福祉会 社会福祉法人永甲会 特定非営利活動法人 Piano Piano 社会福祉法人仁栄会ねむのき 一般社団法人ライフサポートかこしま	個人	特定非営利活動法人アスイク

## 復興応援 キリン絆プロジェクト（2015 年度 助成先と内容）

助成先団体名・プロジェクト名	事業内容
いわき 6 次化協議会 「いわき食 Lab o プロジェクト」	いわき産農作物の加工品によるいわき野菜のブランド化・一次産業モデルづくり
ふくしま土壤ネットワーク 「桃のカプロジェクト～福島には本当のおいしさがある～」	福島の代表的な桃「あかつき」のブランド化
J A そうま トルコギキョウ生産部会 「咲かそうま トルコギキョウ魅力アッププロジェクト」	トルコギキョウを中心とした福島の花の産地育成・ブランド育成
がんばっぺ！あんぼ柿協議会 「伝統産業 伊達のおんぼ柿の復活と継承～新たな挑戦～」	90 年以上の歴史を持つ、伊達のおんぼ柿のブランド再生と育成
そうま 天のつぶブランド協議会 「天のつぶ ブランド育成プロジェクト」	福島県発祥のブランド米「天のつぶ」のそうま地域でのブランド育成・加工品
郡山ブランド野菜協議会 「郡山ブランド野菜による食文化創造プロジェクト」	郡山の土地を象徴する「ブランド野菜」を生み出していき、郡山市の食文化の魅力向上に寄与
一般社団法人 Cool Agri 「～地元を誇りに～福島食 発信プロジェクト」	浜中会津の地域農業を先導する若手農家が一丸となり、福島県の食の美味しさ、それを作る人、地域、その誇りを伝達
福島魅プロジェクト 「お客様と創る福島食の魅力」発信プロジェクト	開発段階から県内消費者と一緒に福島食の食材を使ってギフトを創っていくことで、生産者との心の距離を縮め、安心の先にある喜びや誇りを一緒に構築することをめざす

東日本大震災復興支援 サントリー東北サンさんプロジェクト  
チャレンジド・スポーツ支援事業（2015 年度 実績）

## 「チャレンジド・スポーツアカデミー」：アスリート・ビジット

開催日	実施会場	実施競技
4 月 22 日	福島県いわき市小名浜東小学校	車椅子バスケットボール
5 月 28 日	岩手県久慈市立久慈湊小学校	車椅子バスケットボール
6 月 9 日	宮城県気仙沼市立階上中学校	車椅子バスケットボール
7 月 8 日	福島県相馬郡新地町立尚英中学校	車椅子バスケットボール
8 月 28 日	岩手県大船渡市立末崎小学校	車椅子バスケットボール
10 月 22 日	福島県白川郡棚倉町立近津小学校	車椅子バスケットボール
11 月 27 日	宮城県南三陸町立志津川中学校	車椅子バスケットボール
12 月 1 日	岩手県釜石市立釜石中学校	車椅子バスケットボール
1 月 18 日	福島県三春町立岩江中学校	車椅子バスケットボール
2 月 18 日	宮城県立女川町立女川中学校	車椅子バスケットボール

## 「チャレンジド・スポーツアカデミー」：チャレンジド・スポーツ体験教室

開催日	実施会場	実施競技
6 月 7 日	福島市あづま総合体育館	車椅子バスケットボール、盲人マラソンガイド体験 障害者陸上選手講演
7 月 5 日	岩手県ふれあいランド岩手	車椅子バスケットボール、チェアスキー体験
8 月 17 日	仙台市体育館	車椅子バスケットボール、ブラインドサッカー

## 「チャレンジド・スポーツ育成サポート」寄贈実績

（岩手県）陸上用車椅子 2 台、児童体験用障害者スキー用具 2 セット

（宮城県）陸上用車椅子 2 台、児童体験用競技車椅子 2 台、ハンドバイク 2 台

（福島県）競技用車椅子 12 台、会津総合体育館修繕費

## 貸借対照表

(平成 28 年 3 月 31 日現在)

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
<b>I 資産の部</b>			
1. 流動資産			
現 金 預 金	104,543,112	129,570,665	△ 25,027,553
未 収 金	10,289,763	6,742,837	3,546,926
前 払 費 用	3,094,585	1,366,935	1,727,650
立 替 金	0	5,000	△ 5,000
貯 蔵 品	222,882	430,423	△ 207,541
流動資産合計	118,150,342	138,115,860	△ 19,965,518
2. 固定資産			
役 員 退 任 慰 労 引 当 資 産	9,377,000	6,877,000	2,500,000
職 員 退 職 給 付 引 当 資 産	1,828,610	2,039,830	△ 211,220
受 取 寄 付 金 資 産	161,022,461	186,673,498	△ 25,651,037
受 取 助 成 金 資 産	8,800,763	0	8,800,763
ソ フ ト ウ ェ ア	1,793,401	1,654,801	138,600
そ の 他 固 定 資 産 合 計	19,488	175,318	△ 155,830
固定資産合計	182,841,723	197,420,447	△ 14,578,724
資産合計	300,992,065	335,536,307	△ 34,544,242
<b>II 負債の部</b>			
1. 流動負債			
未 払 金	16,171,122	17,149,249	△ 978,127
そ の 他	2,046,186	1,850,462	195,724
流動負債合計	20,097,308	20,253,011	△ 155,703
2. 固定負債			
役 員 退 任 慰 労 引 当 金	9,377,000	6,877,000	2,500,000
職 員 退 職 給 付 引 当 金	1,828,610	2,039,830	△ 211,220
固定負債合計	11,205,610	8,916,830	2,288,780
負債合計	31,302,918	29,169,841	2,133,077
<b>III 正味財産の部</b>			
1. 指定正味財産	169,823,224	186,673,498	△ 16,850,274
2. 一般正味財産	99,865,923	119,692,968	△ 19,827,045
正味財産合計	269,689,147	306,366,466	△ 36,677,319
負債及び正味財産合計	300,992,065	335,536,307	△ 34,544,242

## 会員数の推移

	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
正 会 員 ( 法 人 )	37	34	34	33
賛助会員 ( 法 人 )	74	80	79	81
賛助会員 ( 個 人 )	84	88	89	83

# 正味財産増減計算書

(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受 取 会 費	22,644,000	23,146,000	△ 502,000
正 会 員 受 取 会 費	12,360,000	12,720,000	△ 360,000
賛 助 会 員 受 取 会 費	10,284,000	10,426,000	△ 142,000
事 業 収 益	39,572,427	44,669,460	△ 5,097,033
公1. 社会貢献啓発事業収益	364,390	368,312	△ 3,922
公2. 社会貢献促進事業収益	38,393,807	43,566,171	△ 5,172,364
公3. 共生社会創造事業収益	814,230	734,977	79,253
受 取 助 成 金	9,479,706	11,704,516	△ 2,224,810
受 取 寄 付 金	290,124,704	300,507,762	△ 10,383,058
雑 収 益	153,957	60,803	93,154
経 常 収 益 計	361,974,794	380,088,541	△ 18,113,747
(2) 経常費用			
事 業 費	366,031,235	356,705,836	9,325,399
(公1 社会貢献啓発事業費)	7,870,458	6,626,205	1,244,253
(公2 社会貢献促進事業費)	356,116,008	347,188,657	8,927,351
(公3 共生社会創造事業費)	1,918,546	1,694,383	224,163
(公益共通事業)	126,223	1,196,591	△ 1,070,368
管 理 費	15,770,604	18,348,924	△ 2,578,320
経 常 費 用 計	381,801,839	375,054,760	6,747,079
当期経常増減額	△ 19,827,045	5,033,781	△ 24,860,826
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
固 定 資 産 除 却 損	0	222,831	△ 222,831
経常外費用計	0	222,831	△ 222,831
当 期 経 常 外 増 減 額	0	△ 222,831	222,831
当 期 一 般 正 味 財 産 増 減 額	△ 19,827,045	4,810,950	△ 24,637,995
一 般 正 味 財 産 期 首 残 高	119,692,968	114,882,018	4,810,950
一 般 正 味 財 産 期 末 残 高	99,865,923	119,692,968	△ 19,827,045
II 指定正味財産増減の部			
受 取 助 成 金	14,625,744	0	14,625,744
受 取 寄 付 金	216,218,463	335,273,248	△ 119,054,785
一 般 財 産 へ 振 替	△ 247,694,481	△ 148,599,750	△ 99,094,731
III 正味財産期末残高	269,689,147	306,366,466	△ 36,677,319

## 役員

会 長	浅野 史郎	神奈川大学特別招聘教授 元・宮城県知事
副会長	田中 克人	東北福祉大学特任教授
理事長	高橋 陽子	
理 事	井関 利明	慶應義塾大学名誉教授
理 事	太田 達男	公益財団法人公益法人協会理事長
理 事	木全 ミツ	認定特定非営利活動法人 JKSK 女性の活力を社会の活力に 会長
理 事	河野 通和	株式会社新潮社役員待遇「考える人」編集長
理 事	篠塚 英子	お茶の水女子大学名誉教授 人事院顧問
理 事	永田 俊一	楽天銀行株式会社取締役
理 事	西崎 哲郎	東京国際コンサルティング株式会社会長
理 事	藤原 作弥	作家／元・日本銀行副総裁
理 事	藤原 房子	ジャーナリスト
理 事	堀田 力	公益財団法人さわやか福祉財団会長
理 事	松岡 紀雄	神奈川大学名誉教授
理 事	村木 厚子	前厚生労働事務次官
理 事	山崎 美貴子	東京ボランティア・市民活動センター所長
監 事	奥川 貴弥	弁護士
監 事	尾崎 輝郎	公認会計士

## 2015年度 ANNUAL REPORT

---

2016 年 9 月 30 日 発行

発 行：公益社団法人 日本フィランソロピー協会

発行人：公益社団法人 日本フィランソロピー協会 高橋 陽子

〒100-0004 東京都千代田区大手町 2-2-1 新大手町ビル 244

TEL：03-5205-7580

FAX：03-5205-7585

URL：<http://www.philanthropy.or.jp>



(最寄駅)

● JR「東京」駅 丸の内北口より徒歩 5 分

● 地下鉄「大手町」駅 B3 出口直結

(東京メトロ 丸ノ内線／千代田線／東西線／半蔵門線、都営地下鉄 三田線)